

分類	No.	チェック項目	基本	チャレン ジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																	
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
																							
組織・公正な取引	1	【内部管理体制】 ・経営理念及び経営目標を社内でも共有、実践している。	●		毎日の朝礼時に経営理念の唱和とディスプレイ掲示で共有している。 また、経営理念に基づく10の信条(クレド)で行動している。職員全員が経営理念とクレドの記載されたカードを常時身につけ、強い意識を持って実践している。								8	9								17	
	2	【法令遵守】 ・法令遵守の考えが社内に浸透し、法令を確実に遵守する体制・仕組みを構築している。	●		クレド(10の信条)内に『コンプライアンス』を掲げ、法令・職業倫理・社会規範を遵守した上で実務を行っている。																16		
	3	【公正な競争】 ・不正競争行為に関与しない方針を掲げ、社員に周知している。	●		就業規則(第53条2-17.18)に記載し、社内周知ができています。											10					16		
	4	【組織体制】 ・企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対応する担当や専門部署などの体制を整備している。	●		2020年12月よりSDGs取組み構築のためSDGs推進担当を選出し体制を整備している。推進担当を中心に2030年までに目標達成を目指す。																16		
	5	【知的財産保護】 ・知的財産の保護に取り組んでいる。	●		代表者および各部署の管理責任者のもと知的財産の社内外流出・保全措置・リスク管理を講じて、全職員と会社とで機密保持誓約書を交わしている。								8.2 8.3	9							16		
	6	【個人情報保護】 ・個人情報を適切に管理している。	●		個人情報保護に関する方針を社内に掲示し周知徹底している。 個人情報の記載のあるものはすべてシュレッダーにかけて破棄している。																16		
	7	【ステークホルダーとの対話】 ・ステークホルダー(※)との対話により、自社の活動がステークホルダーに及ぼす影響を把握し、適切に対応している。(※利害関係者:消費者、投資家等及び社会全体)	●		クライアントおよび金融機関等にセミナー開催、ユウワ通信・FAX・NEWS・公式LINEやInstagram・Facebookなどで継続的に情報発信をし、それに対してフィードバックも受けている。															16	17		
	8	【サプライチェーン管理】 ・サプライヤー、事業パートナー等と、人権侵害の防止、生物多様性や生態系への悪影響の防止、倫理面での適切な対応(ハラスメント・汚職・贈収賄防止)について認識を共有し、共に取り組んでいる。		●	来たるべきESG投資時代へ向け高い評価を得て、社会や取引先に選ばれる企業になるために、クライアントとの電子契約書や資料のデータ化によりペーパーレスを推奨するなど様々な側面からESGの課題に取り組んでいる。					5			8		10		12	13	14	15	16	17	
	9	【災害や事故への備え】 ・地震や水害などの自然災害や事故などに備え事業継続計画(BCP)を策定し、訓練や見直しを行っている。		●											9		11		13.1			16	17
	10	【事業承継】 ・事業承継に関する検討・対策を行っている		●	クライアントや金融機関を対象とした事業承継セミナーを継続的に行っている。当セミナーによって得られる知見をもとに将来的な事業承継への備えも進めている。								8	9								17	
	11	【公正な貿易】 ・フェアトレード商品の調達に取り組んでいる。		●			1	2			5			8				12	13	14	15	16	17
労働・人権	12	【差別の禁止】 ・性別、年齢、障がい、国籍、出自などによる差別や各種ハラスメントを防ぐ体制が整備され、社内で差別や人権侵害がないことを確認している。	●		セクハラなどハラスメント担当窓口を男性1名・女性1名設置し、差別やハラスメントを防ぐ風通しの良い体制を構築している。				4.3 4.4 4.5	5.1 5.2 5.5			8.5 8.7 8.8		10.2 10.3						16.1 16.2 16.7		
	13	【労働安全衛生】 ・業務中の事故等を防ぐため、安全で衛生的な労働環境の整備に取り組んでいる。	●		約150坪の事務所はすべて床はフルフラットでフリーアドレスを採用し、社員全員が快適な労働環境で業務にあたっている。 衛生委員会を設置し、社内の労働安全衛生について産業医同席のもと毎月会議を行っている。			3					8.8										
	14	【公正な待遇】 ・雇用形態に関わらず、同一労働同一賃金等の原則に沿って対応している。	●		社員・パートなどの雇用形態による社会保険など勤務条件の差はない。					5.5			8.5		10.2 10.3								
	15	【ワークライフバランス】 ・働き方の見直し等により、過度な長時間労働を防止し、家庭と仕事の両立を図るためのワークライフバランスを推進している。	●		2020年6月1日より時間外労働の上限規制による対応策を実施している。4月・6～10月は19:30に、5月・11月～3月は21:30に事務所を施設する。土日祝日と夏季休暇、年末年始は終日事務所原則利用不可とし、また毎週水曜日はノー残業デーを推奨している。			3		5.5			8.5 8.8		10.3								
	16	【人材育成】 ・適切な能力開発、教育訓練の機会を従業員に提供している。	●		新人研修、実務に必要な知識やスキルを得るため、社内検定試験(TKC巡回監査士補・巡回監査士)制度を設け、その費用も会社が負担している。また様々な自己啓発のための支援を行っている。				4	5.5			8	9									
	17	【健康経営】 ・従業員が心身ともに健康を維持できるよう対策を講じ、生産性の向上等に取り組んでいる。	●		2020～24年まで健康経営優良法人の認定を受け、全社員で健康を意識した取り組みを実践している。例:定期健康診断の100%受診、二次検診は出勤扱い・受診料会社負担(上限1万円)、禁煙外来受診も同様。2階に併設するフィットネスジムの会費を一部会社負担としている。			3					8									17	
	18	【ダイバーシティ経営】 ・多様な人材(女性、外国人、障がい者、高齢者等)が、十分に活躍できる環境の整備に取り組んでいる。	●		女性雇用率67.6%、2023年採用数9名中5名女性。管理職12名中女性4名(比率33.3%)。				4.4	5.1 5.5			8.5		10.2 10.3						16.7		
	19	【新しい生活様式への対応】 ・新型コロナウイルスをはじめとする感染症対策としても有効なテレワークや時差出勤、ウェブ会議等を導入している。		●	全職員に1人1台のPCが貸与されているが、スマートフォン・モバイル・モニター・プリンターなど充実した環境が整備されている。また同時期よりクライアントへの訪問回数を減らし、オンラインでの会議・打ち合わせを積極的に行っている。			3					8	9.1		11	12						
	20	【デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進】 ・ICTやAIを活用したデジタル化やオンライン化等のDXの推進により業務の効率化やビジネスモデルの変革に取り組んでいる。		●	DX推進担当を選出、情報システム部を新設した。資料の電子化で資源の削減を図るとともに、事務業務をChatGPTなどAIに代替することで、より付加価値の高い業務に注力している。自社で導入・構築し、クライアントへ波及させている。								8	9.1		11	12						
	21	【プライト企業】 ・プライト企業に認定されている。		●	2016年11月16日認定、2019年10月17日、2022年10月11日更新認定を受けている。			3	4					8	9			12					

分類	No.	チェック項目	基本	チャレン ジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
																						
環境	22	【環境汚染予防】 ・廃棄物や有害化学物質の適切な管理、及び処理に取り組んでいる。	●		廃棄物が生じた場合には専門業者に委託し適切に処理している。シュレッダーにかけた資料は、再生ゴミとして処理している。			3.9			6.3					11.6	12.4		14.1	15.1		
	23	【エネルギー】 ・電力やガソリンなど、自社のエネルギー使用量を把握し、その削減に取り組んでいる。	●		節電のため空調工事を行った。17時以降は無駄な電気を消すなど全職員で節電を意識し、適切な空調管理も行っている。また電気使用量を把握し、社内に使用量削減の啓蒙を行っている。							7.3					13					
	24	【温暖化対策】 ・自社の温室効果ガスの排出量を把握し、排出の抑制に取り組んでいる。	●		会議や打ち合わせ等、可能な限りオンラインで行い、車の使用頻度やガソリン使用量の把握と削減およびCO ² 排出量の把握・抑制に取り組んでいる。		2.4					7.2 7.3 7.a					12.4	13	14	15		
	25	【生物多様性】 ・自社活動が環境(生物多様性や生態系等)に悪影響を及ぼさないように配慮している。	●		京都大学・関西大学・拓殖大学・福岡大学の教授による環境保全や環境負荷低減に関する情報共有を行っている。						6.6								14	15		
	26	【効率的な資源利用】 ・ごみを減らし、資源を有効的に繰り返し使うため、発生抑制(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)に取り組んでいる。	●		リサイクルごみ、紙ごみなど分別を徹底し、プラスチックストローを紙ストローに変えるなどプラスチックごみの削減に取り組んでいる。									9.4			12.2 12.4 12.5		14.1	15		
	27	【水の管理】 ・熊本の水資源の質と量の保全に取り組んでいる。	●		社内の水場各所に節水シールを貼り、普段から節水に取り組んでいる。汚水を流さないよう意識している。		2.4				6.1 6.3 6.4 6.6 6.b					11.5			14.1 14.2 14.3	15		17
	28	【環境に配慮した製品等】 ・環境に配慮した製品の購入や製品の開発・製造に取り組んでいる(グリーン購入、リサイクル製品認証等)。	●		電子契約書を導入するなどペーパーレスに積極的に取り組んでいる。またリサイクル製品を積極的に活用している。									9.4			12.4 12.5	13	14	15		
	29	【食品ロスの削減】 食品ロスの削減に取り組んでいる。		●	キッチンコーナーに『食品ロス削減』を促す掲示物を張り、全職員へ意識づけを行っている。	1	2				6.4						12.3		14	15		17
	30	【緑の安全管理】 ・壁面緑化や植栽など緑の創出と保全、管理に取り組んでいる。		●												11.6 11.7		13.1 13.3		15		17
	31	【エネルギー効率の見直し・再生可能エネルギーの利用】 ・高効率機器の導入等によるエネルギー使用率の改善またはや再生可能エネルギーの利用や供給に取り組んでいる。		●								7.1 7.2 7.3 7.a		9.4		11.5		13.1 13.3				
	32	【森林資源の循環利用に向けた取組み】 ・”伐って、使って、植えて、育てる”の持続的な森林利用への取組みを推進している。		●							6			9.4		11.3 11.4 11.5	12.2	13		15		
	33	【植林等の取組み】 ・植林等の森林整備活動に取り組んでいる。		●							6.1 6.3 6.6					11.3 11.4 11.5	12.2	13		15		
	34	【海洋ごみ】 ・環境中で分解しにくいプラスチックの使用削減等、海洋ごみ、海洋汚染の防止削減に貢献している。		●	来客用ストローをプラスチック製から紙製のものに変更し、現在も継続利用している。												12.2 12.5		14			
	35	【環境に配慮した交通手段】 ・電車やバスなどの公共交通機関の利用や、電気自動車や水素自動車などの環境にやさしい自動車の使用を促進している。		●	敷地内にシェアサイクルサービス「Charichari」のサイクルポートを設置し、従業員の移動手段として利用している。									9.4		11.2		13.1 13.3				
	36	【2050年CO2排出量実質ゼロへの取組み】 ・2050年CO2排出実質ゼロを目指し、計画的にCO2削減に取り組んでいる。		●								7.1 7.2 7.3 7.a		9.4		11.6 11.a	12.8	13				17.2

分類	No.	チェック項目	基本	チャレン ジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
																						
製品・サービス	37	【製品・サービスの安全性と品質】 ・製品・サービスの安全性や品質を確保する仕組みを構築している。	●		社内に審理課および外部より国税OB4名を配置し、申告書等の正当性を強化している。また決算書などの財務情報を金融機関に開示する無償のクラウドサービスを導入し、品質を保証したタイムリーかつ信頼性の高いサービスを提供している。			3.9						9			12.4					
	38	【ユニバーサルデザイン】 ・障がい者、高齢者に特定せず、誰もが利用しやすいサービス提供や環境整備を行っている。	●		社内はフリーアドレス制を導入し、床はフルフラットでだれでも負担なく利用することができる。									9.1	10	11.7						17
	39	【地域資源】 ・地産地消を推進し、熊本県産の原材料を優先的に使用している。		●			2.3 2.4					7.3	8	9		11.a	12.3	13	14	15		17
	40	【木質化の取組み】 ・自社の執務室等の天井や床、壁等の内装や外壁等に木材を使用し、木質化を推進している。		●								7					12.2	13.1		15		
	41	【社会課題解決】 ・社会課題を解決するための製品・サービスの開発・展開に取り組んでいる。		●		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	42	【攻めの農林水産業】 ・地域における産学官連携等による新たな品種開発を促進するなど、地域レベルで農林水産業の生産能力向上に努めている。		●			2.3 2.4							8.2	9.2 9.4		11.a	12.2		14	15	
持続可能な社会・地方創生	43	【地域への参画】 ・自治活動や福祉活動、防災活動や寄付、ボランティアなど社会貢献活動に積極的に取り組んでいる。	●		事業者として「こどもひなの家」に参加し、地域の子どもたちの避難所として協力している。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	44	【防災、減災、レジリエンス(自助)】 ・過去の地震や水害などの災害を教訓に、事業への被害を防止・軽減するため、ハザードマップを確認し、避難行動計画や事前防災対策を進めている。	●		水・食料・マスクなどの備蓄を行っている。ハザードマップを配置し、避難場所等の確認も行っている。また、社内にAEDを設置し、万が一の際の迅速な対処ができるよう備えている。				4							11.5		13.1			16	
	45	【防災、減災、レジリエンス(共助)】 ・地域防災の担い手としての認識を持ち、防災士、水防団員、救助救急等の必要な技能を持つ社員を育成したり、地域消防団の活動に参加している。		●		1.5		3	4						10.2	11.5		13.1			16	17
	46	【防災関連商品の開発・販売】 ・防災関連商品の開発・販売を促進している。		●										9		11	12	13.1				
	47	【SDGsの普及啓発】 ・環境問題や人権問題をはじめとした社会課題の解決に向け、SDGsの普及啓発や教育機会の提供を行っている。		●		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	48	【インターンシップ等の受入れ】 ・職場体験、インターンシップの受入れ、職場関連授業の実施など、地域の児童や学生に対し、職業の学びの場を提供している。		●	2019年より大学生・専門学生のインターンシップを受け入れ、実務体験・指導を行っている。また業界解説セミナー、オフィス見学会も実施している。企業を知る機会の提供と若者のキャリア意識向上と支援を続けている。2021年より新卒採用を継続している。				4				8.6		10.2						17	
	49	【若者の地元定着等】 ・若者の県内就職を促進する取組みを行っている。		●	県内大学と連携して、若者が熊本県に就職する機会を増やす取り組みを促進している。インターンシップやキャリア科目の授業を実施し、若者にスキルや専門知識を学ぶ場を提供している。				4.4				8.5 8.6									17
	50	【農林水産業の担い手確保】 ・子どもに対する農林水産業教育を行うなど、地域における農林水産業従事者の確保に取り組んでいる。		●			2		4.3 4.4 4.5					8.6		10.2		12	13	14	15	